

酸誘導体のヨードホルム反応

Iodoform Reaction of Acid Derivatives

1190248 永田 太輝

Daiki Nagata

ヨードホルム反応は、アセチル基および酸化してアセチル基を与える α -ヒドロキシエチル基を部分構造に有する有機化合物を検出する定性分析に用いられる。高等学校の教科書にも記載されている一般的な反応であるが、エステルやアミドなどの酸誘導体を用いた場合、加水分解して酢酸になるために反応が進行しないと言われている。私はこの記述に疑問を呈し、酸誘導体を基質に用いたヨードホルム反応について検討を行った。

実際に、教科書の方法では陰性であった。しかし、基質が水に溶解しないためであると考え、水の代わりにメタノールを溶媒に用いたところ、酢酸エステルや N,N-ジメチル酢酸アミドを基質に用いた場合も、ヨードホルム反応が進行することを明らかにした。

